C 会場-⑩

経営学系の国際ジャーナルにおける研究価値の訴求方法：多量言語コーパスデータ分析による示唆

中谷安男（法政大学）

世界の大学の競争力を示すランキングでは，研究能力の高さを示唆する論文引用係数も重要視されている。だが日本において，経営学系の国際的学術誌への掲載を目指した戦略的な取組みに関する報告はあまりない。

トップジャーナルでは，既存の理論に言及した上で，さらなる新規の理論的貢献を行うことが求められる。これには，主要な先行研究に対し Critical Review（CR）を行い，独自の研究課題の提示が必須となる。だが既存では， CR による批評の方法や，それに基づく Literature Review の具体的執筆法に関して，多量の論文分析に基づく考察は少ない。|以上の点から本論では，経営学分野におけるインパクトファクターの高い学術誌の論文の大規模コーパスデータを用い，研究価値の訴求方法に関する考察を行う。具体的には，以下の代表的な 4 誌に掲載された 50 本の研究論文で構成される約 75 万ワードの語彙データを活用した。|Academy of Management Review，Academy of Management Journal，Strategic Management Journal，Journal of Marketing この中から Introduction 及び Literature Review 部分を抽出し，BJCR（Business Journal Critical Review）コーパスを作成した。BJCR データの特徴明示のため, 米国および英国の出版物で構築された F-BROWN と F-LOB コーパスの約 200 万語と比較検証した。コンコーダンス・ソフト AntConc による統計的分析 Keyword List の活用により, 語彙・クラスターの特徴的な英語表現を抽出できた（$p<0.001$）。結果として次のことが解明された。

Critical Review として，以下の 5 項目の批評を行い先行研究の課題を提示していた。①理論的背景，②実験調査の対象，③実験等の条件，④検証タスクとデータ収集法，⑤データ分析手法。これらを基に，続く Literature Review の章は 5 つの構成となっていた。1 研究背景となる重要な先行研究の引用，2 論文で取り扱う理論の説明，3 研究課題に関わる概念の説明や定義，4 先行研究から導きだされる新たな課題の示唆，5 これに基づく仮説の設定。以上の結果から，英語論文における効果的な研究価値の訴求方法が示唆された。